

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「みんなと同じことができない」

「みんなは1回書いて覚えるのに、私は5回も6回も書かないと覚えられないんです。自学で覚えたことを3日経つと忘れるんです。自分に合った学習の仕方を知りたいので、検査を受けたいです」という生徒本人からの訴えがきっかけとなり、知能検査を実施しました。

1 検査結果

- ・知的発達に遅れはないが、検査間にばらつきがあり、発達のアンバランスさがある
〈苦手な検査〉～①数の平仮名の復唱 ②無意味な記号を瞬時に判別する課題
〈課題・弱さ〉～①ワーキングメモリ（注意を持続させ聞いた情報を記憶・操作する力 脳の黒板）
②視覚的探索の速さや視覚弁別、読む力

2 予想される困り感

- ①聞き漏らしや聞き間違いがある、聞いたことを忘れる、ちょっとした雑音で注意がそれる、話を最後まで集中して聞いてもらえない、約束を覚えてもらえない、暗算が難しい。
- ②音読が遅い、似た形の文字を読み間違える、文字の細かい部分を書き間違える。

3 有効と思われる支援

- ①音の弁別・選別ができる座席にする、注意の集中を促してから話し掛けて指示は短めにする、最初にモデルや完成品を提示してイメージをもたせる、覚える事柄を言葉や身近な物とリンクさせて意味付けする（例：「意」→「立つ～日～心～」と声に出して練習する、「意」という漢字の入った熟語を意識的に会話で使うようにする）、反復学習だけでなく既習知識や体験など長期記憶に保持されている意味記憶やエピソード記憶と関連付けながら学習する、自分に合った記憶術を見付ける。
- ②文字を読みやすい大きさにしたり、見本を生徒の近くに置いたりする、形をイメージしやすいように身近な物や言葉で意味付ける、見通しがもてるように活動内容・手順・ゴールを確認する。

検査結果を学校関係者と保護者だけでなく、自己理解を促すために生徒本人にも直接報告します。支援のスタートは、学校と家庭の困り感の気付きが一致することです。更に本人が弱さを自覚することで、支援の成果が期待できます。
生徒が乗り越えられなかった壁を、希望の扉にしたいと思います。



とれたて直送便



○ある校長先生の深いお話

- ・「話し方が早口の教師はいけない、子どもを待てない教師はいけない、注意ばかりしている教師はいけない」

○ある園の子どもの心をくすぐる裏ワザ

- ・次の活動への切り替えが難しい子どもに対して、ホールに移動する際、「もっと遊びたかったのに、ちゃんと我慢できたね」と子どもの気持ちを代弁した後、みんなで使う道具を持っていく役割を用意したところ、スムーズに行動しました。しかも友達から感謝され、本人は満面の笑みを浮かべていました。

○秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 全校授業研究会（5/31）で絶賛された？私の謎かけ

- ・授業での教師の役割とかけて、初めての盆栽と解きます。
その心は → 「聞く（菊）と待つ（松）」が大事です。

夏休み 



暑い夏に 熱い研修会を!

夏季休業中に特別支援教育や発達障害等に関する校内研修会を予定している園や学校があれば話題提供をしますので、気軽に声を掛けてください。お待ちしております。（加賀谷勝）